

---

平成26年

災害時歯科保健医療活動研修会  
in 宮城県南三陸町～女川町

---



# 災害時歯科保健医療活動研修会

in 宮城県南三陸町～女川町

日程表：平成26年8月15日(金)～8月17日(日)



## ◆第1日目：8月15日(金) ～オプションツアー

14:00 仙台駅集合

閑上地区	・ 閑上の記憶	2
	・ 閑上中学校	
	・ 閑上湊神社・富主姫神社	3
	・ 東日本大震災慰霊碑	4
	・ 閑上地区 宅地かさ上げ等現地確認場	
	・ ゆりあげ港朝市・メイプル館	
荒浜地区	・ 荒浜小学校	5
	・ 慰霊の塔・荒浜慈聖観音像・慰霊碑、八大龍王	

19:00 大内先生と会食 @十喜たしぎ

## ◆第2日目：8月16日(土)

10:30 仙台駅集合

11:10 仙台空港集合

13:00 南三陸町陸前戸倉にて斎藤先生・三浦夕さんと合流

志津川地区	・ BRT(Bus Rapid Transit)陸前戸倉駅	6
	・ あさひ幼稚園	7
	・ 公立南三陸診療所	
	・ 斎藤先生による講義「ランチョン語り部—津波の威力と町の変化」	8
	・ 南三陸図書館・南三陸オーストラリア友好学習館(コアラ館)	9
	・ 防災対策庁舎	10
	・ 南三陸ポータルセンター・さんさん商店街	
	・ 志津川中学校	11
	・ 戸倉中学校	
16:30 釜谷地区	・ 大川小学校	12
18:00 女川地区	木村先生と合流	
	・ 女川地区仮設歯科診療所	
19:30	木村先生・斎藤先生と会食 @浜長	13
22:30	女川町トレーラーハウス宿泊村 EL FARO(エルファロ)にて宿泊	14

## ◆第3日目：8月17日(日)

8:00 女川地区	・ 女川中学校	14
	・ 女川原子力発電所	15
牡鹿半島	・ 南三陸金華山国定公園 月浦	
女川地区	・ マリンパル女川 おさかな市場	16
	・ 女川第一小学校	
	・ きぼうのかね商店街	
	・ おちゃっこクラブ	17
	・ おながわ復興まちづくり 情報交流館	
	・ 江島共済会館・七十七銀行女川支店	18
17:40	仙台駅にて解散	

女川歯科保健チームとは

# 女川ツアー2014 : 1日目 8月15日(金)～オプションツアー

仙台駅・仙台空港 → 閑上地区 → 荒浜地区 → 仙台駅周辺にて大内先生と会食

## 閑上の記憶 Mémoire de Yuriage

東日本大震災によって壊滅的な被害を受けた名取市閑上。閑上中学校では14名の生徒が津波の犠牲となりました。閑上中学校遺族会が建てた慰霊碑の社務所が“閑上の記憶”です。震災を伝える様々な資料や制作物が展示されており、慰霊碑を守りながら、震災を未来へ語り継いでいく役割を担っています。



手芸教室「閑上あみず」によるレインボーアクリルたわし

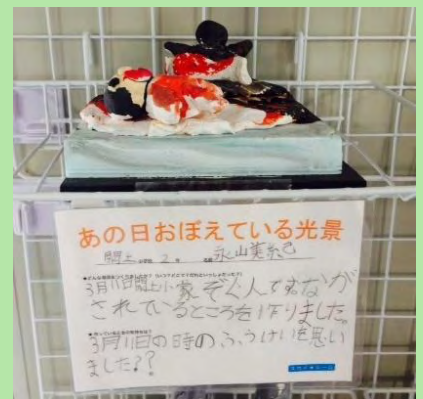
### ～ Psychosocial Workshop ～

子どもたちが震災のつらい体験と向き合い、乗り越えていくためのワークショップ。友だちと一緒に、震災前・震災当時・未来の街のジオラマを作ること、被災体験を共有し、つらい体験を分かち合うことができます。



step1: 震災前のわたしたちの町

step3: 未来のわたしたちの町



子どもたちが震災時に見た光景を再現したジオラマたち。

怖くてつらい現実を押し殺すのではなく、みんなで共に分かち合い、ジオラマとして表現することで、後のPTSD発症を予防しようという試み。

## 閑上中学校



## 関上中学校



2014年5月2日に撮影された慰霊碑横に咲くチューリップ。亡くなられた生徒と同じ数、14本のチューリップが咲いたという小さな奇跡が起こったそうです。



津波の犠牲となった14名の生徒の名が刻まれた慰霊碑。訪れる人に直接触れてもらい、いつも人の体温で温かい慰霊碑でありますように・・・というご遺族の願いが込められています。

## 関上湊神社・富主姫神社

かつては町の中心部、関上二丁目に御鎮座していた関上湊神社。社殿は津波ですべて流失してしまいました。現在は関上日和山の富主姫神社社殿に仮殿として御鎮座しています。



震災前の関上湊神社。



たくさんの絵馬には復興への願いが込められていました。

関上湊神社から見渡した景色。



この日は咲いていませんでしたが、社を見守るようにたくさんの向日葵が植えられていました。



かつては多くの家々が建ち並んでいましたが、いまは更地となってしまっています。

## 東日本大震災慰霊碑



盛り土の部分を含めた慰霊碑の高さは、この地における津波の高さ8.4mとなっています。

この慰霊碑は、「種の慰霊碑」から発芽した「芽生えの塔」が、上へ上へと伸びていく様を表現しています。これは、震災で犠牲になられた方々が天に昇っていく姿をイメージしたものであり、震災を克服し、復興への決意を新たにしている人々の姿を重ねて表現したものです。

亡き人を悼み 故郷を想う  
故郷を愛する御霊よ 安らかに

—碑文より—



閑上湊神社から眺めた慰霊碑の姿。

## 閑上地区 宅地かさ上げ等 現地確認場



名取市閑上地区では、2014年10月以降、土地区画整理・かさ上げ工事が順次始まる見込みです。海拔7.2mの防潮堤を第1次防御ラインとし、海岸線から約1km内陸にある貞山運河の護岸を6mかさ上げして、第2次防御ラインとする計画です。

### 閑上地区 宅地嵩上げ等現地確認場

- 1 海岸堤防の整備高さ（1次防御ライン）  
TP+7.2m
- 2 貞山堀河川堤防沿いの市道整備高さ（2次防御ライン）  
TP+6.0m
- 3 宅地嵩上げ計画高さ  
TP+5.0m

注 TP(Tokyo peilの略)とは、東京湾平均海面をいいます  
名取市震災復興部復興まちづくり課 Tel 290-2092

## ゆりあげ港朝市・メイプル館



閑上地区は江戸時代以前から漁港として栄え、伊達政宗が掘らせたとされる日本最長の運河「貞山運河」を使い仙台北下に海産物を運んだという歴史を持ちます。その閑上地区で約30年前から日曜・祝日に「ゆりあげ港朝市」が開かれています。

移動中の車中より視察



カナダから寄付された木材によって建設されたメイプル館。ゆりあげ港朝市で取り扱っている商品をここで購入することができます。訪れたときには開館時間を過ぎていたため、残念ながら、中を見ることはできませんでした。

## 若林区荒浜地区

荒浜地区は10メートルを超える巨大津波に襲われ、仙台市においては特に壊滅的な被害を受けた地区です。



屋根の上に他の家の屋根瓦が重なっている家屋。



荒浜の人たちが避難した荒浜小学校。津波は2階にまで達しました。周囲は一面水浸しになり、多くの人々が取り残されて、孤立しました。

メッセージつきのお花の苗が、更地にひっそりと植えられていました。



「見た人が少しでも心が和めれば・・・」



慰霊の塔、荒浜慈聖観音像、慰霊碑(左より):  
土台を含めた観音像の高さは約9メートルで、およそ津波の高さとなっています。慰霊碑には、この地で津波の犠牲となった190名の方のお名前が刻まれています。



荒浜・八大龍王:  
文政7年(1824年)、海難防止を祈願して建立されました。社や石碑は流されましたが、鳥居はここに残りました。



「この地が花でいっぱいになりますように」

### 一期一会 ~自治会荒浜パトロールのHさん

たまたま慰霊の塔にパトロールにいらしていた自治会のHさんが、当時の様子を語って下さいました。Hさんが力説なさっていたのは、

- ・4点セット(懐中電灯、ラジオ、靴、軍手)を持って逃げる
- ・4~5日分の備蓄(水・缶詰)を普段からしておく
- ・タンス貯金は駄目。貯蓄をしっかりとしましょう

という災害時に役立つ心得でした。Hさん、貴重なお話、ありがとうございました。

### 大内先生と会食 @十喜 たしぎ

震災当時、宮城県歯科医師会常務理事の任に就いておられた大内康弘先生に、当時の様子をお話していただきました。

震災後の混乱の中、情報伝達の難しさ、行政の対応不足、支援者の受入れの問題など、さまざまな課題が見えてきました。「地域医療を継続し続けることが大事だ」という大内先生のお言葉が心に残りました。



## BRT(Bus Rapid Transit) 陸前戸倉駅



ツアー2日目。南三陸のガイドをしてくださったのは、公立南三陸診療所歯科口腔外科にお勤めの斎藤政二先生と、志津川仮設歯科診療所にお勤めの三浦夕さんのお二人。

BRT 陸前戸倉駅で合流しました。

津波で線路や駅舎が流され、柳津～気仙沼間が不通となったJR気仙沼線に、復旧計画としてBRTが導入されました。2012年12月22日より運行されています。かつて線路であったところをバス専用道路にし、踏切は交差点に。BRTの導入により、低予算による復旧の早期実現が可能となりました。



子どもたちの貴重な通学路として活用されています。BRTの専用道路は、途中で一般道路との合流地点もあります。



周辺の山肌は津波に削ぎ落とされ、杉の木の幹が露出しています。塩害により伐採もされました。



### 南三陸 ホテル観洋

南三陸町の海岸沿いにある老舗ホテル観洋。震災当日、館内にいた宿泊客と避難者350名を高台の駐車場に誘導し難を逃れました。

移動中の車中より視察



### 南三陸消防署(仮設庁舎)

海岸から1.5キロ内陸にあった南三陸消防署も津波にのめられました。現在は志津川の高台に仮設庁舎が設置されています。駐車場には殉職された10名の方々の慰霊碑が建てられています。



## あさひ幼稚園

志津川駅の西側にあり津波に流された幼稚園。サッカー日本代表キャプテン長谷部誠選手からの寄付金9,500万円によって建てられました。



世界的に有名な建築家・手塚貴晴氏による設計。2013年グッドデザイン賞金賞を受賞。



園長が住職を務める大雄寺の参道で被災した樹齢300年の杉の大木が使われています。京都の清水寺をイメージしたもので、釘は一本も使われていません。

## 町立南三陸病院・総合ケアセンター(仮称)新築工事



南三陸診療所の道路向かいでは、津波で全壊した公立志津川病院に代わって新築されることになった新南三陸病院の工事が行われていました。病院に併設される総合ケアセンター(保健福祉施設)の医療と連携し、子どもや障がい者、高齢者の福祉拠点となります。

## 公立南三陸診療所

日本赤十字社を通じて世界の人々からの義捐金6億円で建てられました。2012年4月2日に外来のみオープン。



横には調剤薬局もあります。

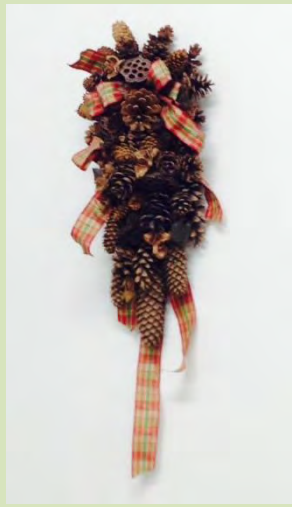


入院治療は登米市旧米山病院に間借りしている志津川病院で行っています。35km離れていて車で40分かかるため、患者も職員もさまざまな困難を抱えています。





旧志津川病院の1階  
内科外来にあった時計。

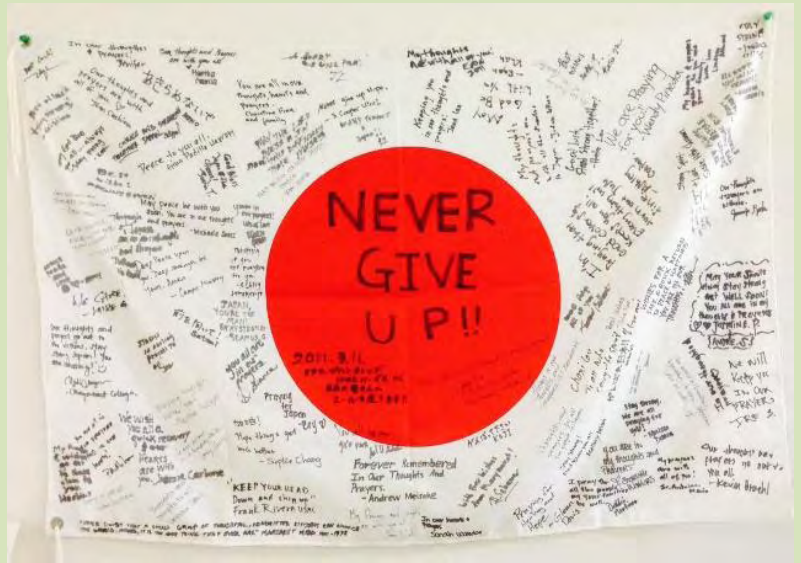


木の実拾いが趣味だといふ齋藤先生。奥様がアレンジした作品。

「自然も人間も、最期にはアースカラーになって土に還る」

という齋藤先生のお言葉が心に残りました。

齋藤先生が勤務なさっている  
歯科口腔外科の診療室。



所内の廊下には、復興を願う作品が数多く展示されています。



### 齋藤政二先生によるスライド説明

お弁当をいただきながら、齋藤先生の貴重なお話を、  
たくさんの画像資料とともに拝聴いたしました。



講義してくださっている齋藤先生



「ランチョン語り部 津波の威力と町の変化」

# 南三陸図書館・南三陸オーストラリア友好学習館(コア館)



オーストラリア・ニュージーランド銀行の支援金で建てられた図書館。広々とした庭には芝が張られ、花やタブノキなどが植えられています。子どもたちの勉強の場としてだけでなく、人々が集う憩いの場となっています。



図書館内部の様子。吹き抜けがあり、開放感溢れる造りになっています。



庭にある手造りのピザ釜。向こう側に見えるのは、左手に南三陸診療所、右手に南三陸町役場です。



ベイサイドアリーナ(南三陸町総合体育館)

移動中の車中より視察

津波に流された防災対策庁舎の代わりに町のほとんどすべての機能を担ったベイサイドアリーナ。災害対策本部、医療統括本部、救護所、支援物資保管場所、遺体安置所などとして使用されました。震災直後には、最大1500名が避難生活を送っていました。

## 防災対策庁舎



防災対策のために庁舎に留まった多くの職員が犠牲となりました。最後まで避難を呼びかけ続けていました。3階建の庁舎屋上を2mも上回る津波にのまれ、屋上に避難して助かった職員は、アンテナにつかまることができた人と手すりでも必死に耐えられた人たちだけだったということです。



## 南三陸ポータルセンター・さんさん商店街



新しい交流の拠点として南三陸町観光協会が管理運営する多目的施設「南三陸ポータルセンター」。2013年8月1日にオープンしました。大型 TENT を活用した仮設施設と木造平屋の2施設から成り、地区の集会や会議など、地域の人々に利用されています。



南三陸さんさん商店街  
2012年2月25日にオープンした約30店舗の仮設商店街。



チリから贈られたモアイ像の前で斎藤先生・三浦タさんと。  
1960年のチリ地震以来、モアイ像は「友好と防災のシンボル」として、南三陸町の人々に愛されてきました。

## 志津川中学校

2011年の卒業式でEXILEの「道」という曲を歌う予定でした。それを聞いたEXILEがここを訪れ、卒業生はEXILEとともに歌うことができました。



志津川の中心部を一望できる高台にあり、震災前の写真プレートが置かれているので、町の変化を比較することができます。



2007年9月8日に撮影された写真プレート



志津川中学校から望む旧志津川町を背にして



2014年8月16日現在の志津川の様子

## 戸倉中学校

海拔15メートルほどの高台にある戸倉中学校も、1階まで津波が到達しました。



三浦夕さんが、自らの被災体験を語ってくださいました。



遠くに小さく見えるのが五十鈴神社の赤い鳥居。津波はこの鳥居にまで到達しました。戸倉小学校と戸倉保育所の児童・教職員は、この山の頂上にある五十鈴神社にまで避難して助かりました。

## 大川小学校

石巻市釜谷地区の北上川河口から約4キロの川沿いに位置する大川小学校。全校児童の7割にあたる74名が犠牲となりました。



たくさんの積み石がありました。



左手奥に見えるのが新北上大橋。この橋に撥ね返された津波が大川小学校を襲いました。

## 石巻市立雄勝病院

雄勝湾を臨み、道路を挟んだ低地に建っていた3階建の病院。入院患者40人、医師・看護師24人の全員が犠牲となりました。生存者は、裏山の高台へ逃げた事務員6人だけでした。



## 女川地区仮設歯科診療所

町内唯一の医療機関であった旧女川町立病院が、平成23年10月から介護施設と一体化した女川町地域医療センターとして新たにスタートしました。



およそ14m高台に建つ医療センターにも、195cmの高さまで津波が到達しました。玄関前の柱には、津波到達地点の記録があります。



地域医療センターの裏にある堀切山は切り崩され、移転新築が計画される女川小・中校舎や被災者の住宅用地などの復興事業に使われる予定です。山の中腹に御鎮座していた鷲神熊野神社は桜ヶ丘地区へと移転され、山の頂上にあつた展望台も取り壊されました。



地域医療センターの駐車場から見た女川湾。横倒しになったままのビルは江島共済会館。



駐車場の端、女川湾を臨む場所にある慰霊碑



地域医療センター内の女川地区仮設歯科診療所にて木村裕先生と。

## 木村先生・斎藤先生との会食 @浜長

女川の美味しい海の幸をいただきながら、木村先生・斎藤先生を囲んで楽しく歓談させていただきました。





室内はトレーラーハウスとは思えないほど快適でした。

エルファロの斜向かいには、復旧工事関係者の宿泊するプレハブがあります。さらに奥には応急仮設住宅が並んでいます。

2012年12月27日にオープンした被災地初のトレーラーハウス宿泊村。震災後、町の復興のためにも宿泊施設の再建は急務でしたが、用地確保が極めて困難でした。そこで出されたアイデアがこのトレーラーハウス。建築物ではなく車両であるため、建築制限区域や農村地等でも設置が可能であり、復旧・復興の状況に応じて移動することもできます。



## 女川ツアー2014 : 3日目 8月17日(日)

女川地区 → 牡鹿半島 → 女川地区 → 仙台空港・仙台駅にて解散

### 女川中学校

高台にある女川中学校はかろうじて津波から免れました。



#### いのちの石碑プロジェクト

女川中学校の生徒たちの発案によって、「千年先まで記録を残す」ため、町内にあるすべての浜に津波到達点を伝えるための石碑を作ろう、というプロジェクト。女川中学校を会場とした女川町復幸祭では、この石碑をゴールに急坂を駆け上がる「復幸男」が行われています。



2013年11月23日 第一号碑建立

もし、大きな地震が来たら、この石碑よりも上へ逃げてください。逃げない人がいても、無理矢理にでも連れ出してください。家に戻ろうとしている人がいれば、絶対に引き止めてください。

今、女川町は、どうなっていますか？  
悲しみに涙を流す人が少しでも減り、笑顔あふれる街になっていることを祈り、そして信じています。

—碑文より—

## 女川港

盛り土工事が進んでいました。  
港周辺には住居は建せず、主に工業施設として使用される予定です。

## 海水浴場 塚浜

女川の海水浴場として、さらに鳴り砂の浜として知られていました。

移動中の車中より視察

## 高白浜仮設

被災した女川町の女性たちが「果樹園CAFEゆめハウス」を活動拠点として「さんまなたい焼き」の販売など、地域コミュニティづくりをしています。「ゆめハウス」では地域の農産物を使った日替わりランチも提供されており、就労支援による地域再生の拠点ともなっています。

## 女川原子力発電所

女川原発では地震直後に稼働中の原子炉が緊急停止されました。いま再稼働を巡って議論となっています。



霧の向こうの山肌に映える白い建物が女川原発です。津波対策の防御壁が見えます。

## 南三陸金華山国定公園 月浦



支倉常長像の目の前に建てられた応急仮設住宅。公園にまで建てなければならなかったほどに、震災後の平地の用地確保は困難でした。かつてここにあった月浦の湾を望む展望台もいまは壊されて、宅地造成されていました。

1613年10月28日、仙台藩主伊達政宗は支倉常長ら慶長遣欧使節をローマ教皇のもとに派遣しました。慶長使節船「サン・ファン・パウティスタ」は、この牡鹿半島月浦から遥かローマを目指し出帆しました。



支倉常長の像



道中、車中よりちらっと見かけたサン・ファン・パウティスタ。思ったよりも小さいです。



## マリパル女川 おさかな市場

女川町のランドマークともなっていた「マリパル女川」は、女川漁港や観光棧橋を見渡す町の玄関口に立地していました。震災後は浦宿浜に場所を移して営業を再開しています。



道路標識より手前が女川町、奥が石巻市。



さんまの昆布巻「リアスの詩」を製作・販売しているマルキチ阿部商店社長、阿部すが子さんと。

## 女川第一小学校

女川第一小学校は、平成25年4月1日より、女川第二小学校、女川第四小学校とともに再編され、女川小学校として生まれ変わりました。

校庭には応急仮設住宅が建てられており、校舎の一部を使って小中学生の学習指導と心のケアを行う「女川向学館」も開かれています(NPOカタリバの運営による)。



## きぼうのかね商店街

がれきの中から見つけた「希望の鐘」をシンボルとし、被災した女川町の商店や人々の生活の復興のために開設された商店街です。温もりを感じる木造の店舗30棟とプレハブ店舗20棟に飲食店、青果店から衣料品店までさまざまなお店が並んでいます。さらに郵便局や金融機関、交番などもあり、今後の女川の復興の中心となることが期待されています。



左より、郵便局、七十七銀行、石巻信用金庫、仙台銀行、交番が並んでいます。



希望の鐘：  
震災後、瓦礫の中からひとつだけ発見されたJR女川駅前にあったからくり時計の鐘。商店街の一角に飾られ、女川の復興のシンボルとなっています。



女川スペイントイル  
@みなとまちセラミカ工房



炊き出しから生まれた  
女川カレー。



## おちゃっこクラブ

地域医療センター敷地内にある軽食・喫茶のコミュニティスペース。



おススメはナポリタン、女川カレーとソフトクリーム。

店内では震災に関する本や写真集などを自由に閲覧することができます。

## おながわ復興まちづくり 情報交流館



「事業・工事 紹介ゾーン」(左)と「復興支援ゾーン」(右)に分かれています。



事業・工事 紹介ゾーン：  
女川の歴史や復興事業計画に関する数々の資料があります。



復興支援ゾーン：  
さまざまな復興支援活動の紹介や関連グッズ、書籍などがあります。

# 江島共済会館・七十七銀行女川支店



**江島共済会館：**  
当初は江島島民の宿泊施設として、最近では事務所や船員の宿舎として利用されていました。



津波により、建物が元の位置から10～16m 移動しています。



建物の底、基盤の部分が見えています。



江島共済会館から見た地域医療センター



**七十七銀行 女川支店 跡地：**  
行員15名のうち13名が屋上に避難して津波の犠牲となりました。



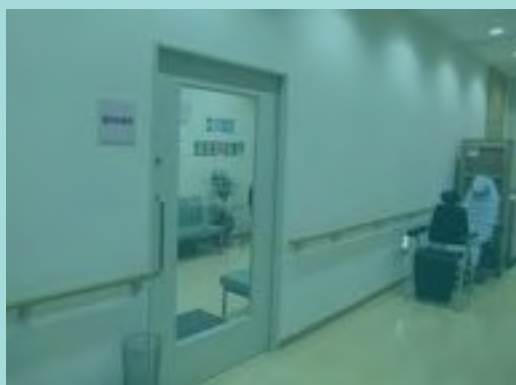
## 女川歯科保健チームとは



女川歯科保健チームは、宮城県牡鹿郡女川町の女川地区仮設歯科診療所の木村裕先生とともに、女川町保健センター、女川町地域医療センターなどとの連携のもと、東日本大震災からの復興を歯科という側面から支援する活動をしています。歯科医療関係者だけでなく、多職種との連携をとりながら、木村先生の担う地域医療をお手伝いしています。



<http://eagerdental.jimdo.com/>



～連絡先～

〒986-2243

宮城県牡鹿郡女川町鷺神浜堀切山51-7

女川地区仮設歯科診療所

代表 木村 裕

TEL: 0225-53-3510

E-mail: eagerdental@gmail.com